

■開館の経緯と意義

おおくぼまちづくり館は、水平社創立80周年を迎えた2002年3月2日に開館しました。1917年から始まった洞村「強制」移転と、1985年から始まった大久保地区での小集落地区改良事業の二度にわたる「まちづくり」の歴史を学ぶとともに、地区住民はもとより部落解放と人権確立を目指す活動に参画する人々の「学習と集いの場」としても活用されています。本年度開館20年目を迎えます。来館者累計は約4万名、来館者を増やすべく様々な取組を進めています。



おおくぼまちづくり館

■展示内容(開館当時とリニューアル内容)

二度にわたる「まちづくり」の歴史を伝え、洞村「強制」移転の実相、生業であった下駄表や草履づくり、戦後隆盛した靴産業の仕事と技を紹介しています。その中では、次の4つのテーマを掲げています。

- ①むらの歴史(年表)
- ②まちづくり(事業)
- ③洞村の移転(歴史)
- ④暮らしと生業(民俗・産業)

建物は洞村時代に農家として建築され、現在地に移築された「丸谷家住宅」を活用しています。当時の生活の実際をうかがわせるものとして、大変貴重な建築物で、古い材木を可能な限り活用・修復しました。

開館以来数年は、県外からも多数来館され、「今まで知らなかった洞村と神武天皇陵の関係がよくわかった」「差別の中で生きてきた洞村と大久保の人々の生の姿に触れることができ、良い学びの機会になった」など

おおくぼまちづくり館

の感想が寄せられてきました。しかし、年を経るごとに来館者数が減少してきました。

これを改善するため、2016年に展示内容をリニューアルしました。これまでの洞村「強制」移転中心の展示内容に加え、新たな資料の発掘や研究成果を反映するようにしました。江戸時代の貞享4年(1687年)に太鼓の張替えをしたことを明記した胴の内側を写した写真なども展示しています。明治維新後、天皇を中心とした国づくりが進む過程で、畝傍山・檀原神宮・神武天皇陵を含む空間が「聖跡」とされ、畝傍山周辺の村々も洞村同様に移転させられました。リニューアル後の展示では、これらの移転の歴史を含め、明治維新から1940年の「紀元2600年事業」までの歴史をふりかえることができます。幕末の絵図や大正・昭和の写真から見る畝傍山周辺の変貌は一見の価値があります。また移転前の洞村のジオラマでは、1910年代当時の洞村を体感できます。展示資料・内容は、まだまだ不十分で「発掘」作業中です。関係資料や写真など見聞きしたことがあれば、ご連絡ください。

■来館のお願い

来館者を対象に、希望に応じて随時フィールドワークを実施しています。これまでの「洞村跡地」に加えて、「紀元2600年事業」で移転させられた畝傍山周辺の村々の跡地等を巡るコースを追加しました。

また、展示内容に加えて、洞村の主要な生業であった下駄表や草履づくりと手縫いの皮靴づくりを紹介するDVDビデオが視聴できます。

おおくぼまちづくり館を「体感」してみませんか！

おおくぼまちづくり館

◇住所 奈良県橿原市大久保町40-59

◇電話 0744-22-4747

◇開館時間 9:00~17:00

◇休館日 月曜、年末年始

※開館日程などは、必ずお問い合わせください。